

大澤 千紘

- ・友人と弟と私の4人で自分の家で遊んでいました。2時46分小さな揺れが始まりました。数日前から地震が頻繁に起きていたので、何事もないだろうと思いながらテーブルの下に潜り込もうとした時、立ってられないような揺れに変わりました。4人の表情が一変に代わり地震がおさまるのを待って、避難訓練通りに高台の避難所に逃げました。避難してすぐに母がものすごいスピードで数キロ先の職場から駆け付けたのを覚えています。
- ・その夜から避難所で共同生活が始まりました。みんなと一緒に生活するので楽しいのかなと思っていました。しかし現実は違っていました。食べ物が食べられない、夜、寝ることができないなど、満足のいく生活ができないため、イライラし自分を見失っている人もいました。
- ・こうして（被災したことで）自分を見失い、財産も失ったわけですが、震災で得たものもあります。それは「絆」です。世界各国や日本全国の皆さんに支援をしてもらい「絆」というものを感じることができました。私たちはこの皆さんのおかげで一步一步復興が進んでいることに感謝の気持ちを大切にこれからの人生を過ごしていきたいと思います。